

第5回 村岡新駅周辺地区まちづくりコンセプトブック作成有識者会議

議事概要

日時： 2023年（令和5年）2月15日（水）15:00～17:00

場所： 藤沢市役所 本庁舎 7階 7-1会議室

出席： <学識経験者・有識者>（◎=会長、敬称略・会長以外五十音順）

◎中島 直人 東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授
有吉 亮 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 特任准教授
石山 さつき 都市プランナー／慶應義塾大学環境情報学部 非常勤講師
井庭 崇 慶應義塾大学総合政策学部教授
同大学大学院政策・メディア研究科研究科委員
高松 誠治 スペースシンタックス・ジャパン株式会社 代表取締役

<藤沢市>

三ツ井 幸子 企画政策部参事 企画政策課長
森井 壽浩 計画建築部 都市計画課長

<事務局>

都市整備部 都市整備課
昭和(株) (株)フロントヤード

議題： ①有識者会議等のご意見と「将来地区像を実現するまちのあり方」について
②まちづくりコンセプトブック（ビジョン編とりまとめ（中間案））について

（会議での意見）

- ・まちづくり協議会でも「自分たちがどう関わるのか」という意見があったが、子どもや高齢者に至るまで、柔軟な発想を持っている人たちが、様々な立場で仕組みに参加できることが見えるように盛り込む。
- ・実際の場所や村岡をイメージできるものが少ない。今の村岡がどのように変わっていくかというイラストがあったほうが良い。
- ・毎日見る景色が同じだと創造性は生まれにくい、小さな変化から人間の創造性は生まれていくので、変化は大事。
- ・「世界をリードする」と漠然と書くよりは、今あるリソースを生かして関係技術者を育むとか、ゆかりがある企業とともに技術者を育むということのほうが村岡らしさもあり現実的。
- ・アーバンデザインをハードのみで定義するのではなく、人が主役であるという形を生み出してほしい。人の話、歴史文化の先に人が主役であるということを入れるべき。
- ・遠景、中景、近景は視覚だけではない、感性を育むということをしっかり示すべき。
- ・新駅周辺地区だけでできることは限られているので、周りも変わっていくことがイメージでき、どのような場所でどのように広がる可能性があるか表現していけると良い。
- ・どんな表現でコンセプトブックをまとめるか、今後デザイン系の方と議論してほしい。
- ・街を歩く人過ごす人が眺めたり、仲間に入ったり等のきっかけとなるような創造性誘発機能となるものを、1階など目線レベルに配置することを強調したい。また、1階だけでなく、何層にも価値があるようにつくるべき。
- ・次の段階では、スケールや高低差、藤沢と比べてどうなのか等を示す必要がある。